

第40回歴史探訪の会

「楠木正成ゆかりの観心寺を訪ねる」

開催日 2014年7月16日(水)

ご案内 森尚夫

梅雨明け前の大変暑い日となりましたが、観心寺の中院で涼しい部屋で観心寺と楠木正成の関わりについてお話を伺いました。ご講和 観心寺 住職 永島 龍弘 氏



◎ 観心寺の歴史

(701年) 役小角によって開祖し当初、雲心寺と称していた。その後弘法大師空海がここを訪れた際、北斗七星を勧請され、再度この地を訪れた時、自ら如意輪観音を刻み安置され、これにちなんで7つの星塚が境内に残り、観心寺と改称されました。空海が一番弟子実恵(じちえ)が造営し現在に至る。





◎ 楠木の祖先

以前第 28 回開催の時、先祖は楠諸兄であるとの説を聞きましたが、今回南河内は河内源氏の発祥の地、源氏三代の墓があり、その子孫が南河内の守護を代々務め、其の下で地頭職を勤めていたのが、南河内金剛山麗の土豪であった楠木氏とする説があります。源氏とのつながりが深い観心寺が楠木正成家代々の菩提寺。



◎ 楠木正成の生い立ちと思想形成（師と仰ぐ人物 2名）

- ・滝覚房 観心寺住職 8歳～15歳まで朱子学を習う

四恩の教え（恩とは感謝・おかげさま）

父母 生んでくれたことに感謝 国王 生活の保護に感謝

衆生 全てのことに感謝 三宝の恩 精神を支えてくれる

- ・大江時親 12歳のころから兵法を習う

◎ 建武の中興（新政）とその後

- ・元弘元年 9月（38歳）笠置で後醍醐天皇と会見 鎌倉幕府を倒し天皇親政を復活するも足利尊氏の離反により 2年余りで崩壊南北朝時代となる。

- ・ 延元元年 5 月（43 歳）湊川で戦死  
1333 年建武の新政始まる。無事を祈って三重塔を創建するも、湊川で戦死のため建て掛けで終わる（観心寺 境内に残る）



◎ 楠木正成の理念

- ・ 七生報国 7 度生き延びて国に報いよ 忠義の武士であり 湊川で戦死さらし首になる所、尊氏が観心寺に送って来た。
- ・ 非利法権天（非理法権天） 非は利に勝てず 利は法に勝たず  
法は権に勝たず 権は天に勝たず  
天は明にして私なし



◎ 楠木正成の人物像

- ・ 国を考える
- ・ いさぎよい
- ・ 情報収集と判断力に優れる
- ・ 豊かな知識と教養を持つ
- ・ 信仰に篤い



◎ 楠木正成の影響

明治維新の思想的原動力

- ・ 「太平記」 広く読まれ、正成の「天才軍略家」が語り継がれています。
- ・ 「戦国時代」 羽柴秀吉の軍師、竹中半兵衛を評するのに、昔楠木、今竹中という言葉が残されています。
- ・ 「江戸時代」 水戸光圀が「忠官の鑑」として大いに顕彰
- ・ 「幕末」 吉田松陰はじめ多くの志士たちが湊川の「嗚呼忠臣楠子之墓」の碑に詣でました
- ・ 「明治」 明治には駐イギリス大使 H・バックス氏が桜井の地に英文の記念碑を寄せています。

長きにわたり日本人の心を捉えた存在感のある楠木正成でした。



